

## INTERVIEW

東京大学大学院医学系研究科  
医学教育国際研究センター 教授  
北村 聖先生



【プロフィール】 北村 聖先生 1978年東京大学医学部卒業，第三内科入局。免疫学教室(多田富雄教授)研究生を経て，1984年米国スタンフォード大学に留学。帰国後東大病院検査部に移り，1995年同副部長，臨床検査医学講座助教授。2002年東京大学医学教育国際協力研究センター教授。2013年より組織変更のため，東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター教授。2003年より東京大学医学部附属病院総合研修センター センター長，2013年より総センター長を併任する。

# 地域医療と国際協力に 共通するミッション

聞き手：山田隆司 地域医療研究所所長

## 研究をしながら教育を学ぶ

山田隆司(聞き手) 今日は東京大学医学教育国際研究センターに北村 聖教授をお訪ねしました。北村先生にはこのたび，地域医療振興協会の理事としてもご協力いただくことになりました。

北村 聖 何ができるか分かりませんが光栄に思っ

ています。

山田 先生とは総合診療専門医に関する委員会でもご一緒させていただいたご縁もありますので，地域医療に携わる医師の育成などについても，お話を伺えればと思います。

まずは、先生の経歴をお話いただけますか。

**北村** 出身は石川県の山代温泉で、高校から金沢に出て、大学で東大医学部に入りました。医学部を卒業して内科へ進みました。産婦人科と内科で最後まで悩んだのですが、女性しか診ないというのは、結局人類の半分しか治せないと思って内科を選びました。内科のローテーションで研修しているうちに白血病を診る機会があったり、血液細胞を顕微鏡で見たらとてもきれいだったり、また血液疾患は自分で診断して自分で治療もできるということで血液グループを選びました。そして2年目は社会保険中央病院へ行きました。

**山田** 東大というのは、卒後すぐに第三内科などに入局するというのではなかったのですか。

**北村** 内科の場合は、2年間好きなのところをまわってから入局を決めます。今は1年目が外の病院で2年目が大学ですが、当時は1年目が大学で2年目は力をつけるために外へ行きました。

**山田** では2年間で内科全般を学ぶのですね。

**北村** そうです。それで3年目に第三内科に入局し、国立医療センター、現在の国立国際医療研究センターに1年間行き、自分も勉強しながら同時に研修医を教えました。研修医たちがとても優秀で、彼らに教えるにはどうすればいいか考えながら教えるのが面白くて、教えることについて随分勉強しました。

**山田** 血液や骨髄の研究をしながら、若い人たちに関わる時間が多かったのですね。

**北村** はい。当時医療センターの教育担当はアメリカ帰りの松枝 啓先生で、アメリカ的な教育をされていたのです。例えば「脾臓が大きくなる病気を5つ、頻度順に言いなさい」というような。でも「脾臓が大きくなるのはいろいろな理由がある。一つはリンパ腫や白血病などの腫瘍疾患、また門脈圧が高くなると大きくなるし、

いろいろなことを病態から考えてゆっくりでいいから全部言える方がいいのではないのか？」などと言いながら、私も教える方法をいろいろ学びました。そのころ、国立熱海病院(現 国際福祉大学熱海病院)に応援に行く機会があって2週間外来を受け持ちました。それが私にとっての地域医療のはじめです。最初はあまり行きたくなかったのですが、行ってみたらとてもよかったですね。それらの経験が今、教育に携わったり地域医療の現場を見て歩いていることにつながっている気がします。

そして2年目には東大第三内科に戻って血液グループに入ったのですが、その時に教授が変わって、自治医大から高久史磨先生がいらした。

**山田** そういうタイミングだったのですか。

**北村** そうです。当時血液グループといっても、ミエローマありγグロブリンありという感じだったので、高久先生に「免疫をやってみたい」と話しました。そうしたら「ちょうどリンパ球がないからいいね」ということで、東大の免疫学の多田富雄先生研究室に学内留学することになりました。2年半くらい、外来は内科でやるけれど、研究は多田先生のところでやるという感じで、そこで学んだことがあるのです。「梁山泊」みたいなもの。つまり向上心を持っている人間が同じ狭い部屋に集まれば……。

**山田** コミュニケーションが生じて、知識の交換ができるわけですね。

**北村** そうです。それが多田研究室の一番いいところでした。今、偉い教授になっている先生たちが集まっていて、楽しかったですね。

それから基礎医学を勉強したくてスタンフォード大学に留学しました。ちょうどモノクローナル抗体が出たところだったので、テーマはモノクローナル抗体によるがん治療でした。3年くらいスタンフォード大学にいて帰ってき